様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ２７ 日現在

機関番号：４７１２４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３８１１１４

研究課題名（和文）米国における大学と博物館の連携による学芸員養成教育プログラムの検証

研究課題名（英文）The verification of museum professional training program based on collaboration between a university and its museum in the United States

研究代表者
梶原　健二（kajiwara, kenji）

福岡女子短期大学・その他部局等・講師

研究者番号：９０７２６４８１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、米国の実地調査を２回実施した。大学教授へのインタビューからは、①1980年代から2000年代以降における博物館教育の課題と変容、②博物館学（museum studies）におけるエデュケーター（教育担当学芸員）養成の必要性とそのカリキュラム内容を明らかにした。また学生への質問紙調査およびインタビューを根拠に、③学芸員養成教育の科目として「博物館運営管理（museum administration）」が重視されていることを明らかにし、わが国の学芸員資格制度に対しても有用性があることを示唆した。

研究成果の概要（英文）：In this study, I carried out two field studies in the United States. First, from the interview of the university professor, I clarified that (ⅰ) the transformation process of museum studies program the 1980s through the 2000s, (ⅱ) the need of the educator training education as the core program in the field of museum studies. Secondly, based on the opinion surveys of students, I made clear that (ⅲ) "museum administration " is now the key subject of the curriculum contents of museum studies. After that, I suggested that "museum administration" would be effective for a curator qualification system in Japan.

研究分野：教育学・社会教育

キーワード：学芸員養成　高等教育　博物館教育　アメリカ

１．研究開始当初の背景

米国には国家資格としての学芸員資格制度はなく、学位については博物館学（museum studies）の修了、あるいは養成大学が発行する資格（certificate）を授与された後、博物館専門職としてキャリア形成を始めることとなる。その専門職とは、たとえば、研究・調査学芸員（curator：以下キュレーター）、教育担当学芸員（educator：以下エデュケーター）、保存専門員（conservator）、運営管理担当（business manager）などがあげられる。したがって、各大学の養成課程では、展示物史料の専門家（curator, conservator, exhibit designer 等）のほかに、教育の専門家（curator, interpreter）、営業・渉外・資金確保（business manager, fundraising 等）など、その大学の特長に応じた教育プログラムが展開されている。

一方、我が国においては、学芸員資格制度のもと、養成校には法定科目（9 科目 19 単位）の開設義務がある。この制度は、学芸員の資質能力を一定に保証する効果があるものの、今後、「地域文化の中核的拠点」として「国際的にも遜色のない高い専門性と実践力を備えた質の高い人材」（「学芸員養成の充実方策について（第 2 次報告書）」）を養成するためには、各大学における学芸員養成課程のさらなる改善・充実、そして特色が求められるのではないだろうか。

このような現況に鑑み、米国の先駆的な学芸員養成の実証的検証は、我が国の学芸員の専門性の強化を図るうえで有益であろう。

２．研究の目的

本研究は、米国における大学と博物館の連携によって展開される教育プログラムに焦点をあて、その特徴と課題を明らかにすることを目的とする。

我が国の学芸員制度においては、平成 24 年度より学芸員養成課程の履修科目改革の一つとして「博物館教育論」の新設等が実施され、学芸員の専門的資質・能力の向上が求められている。今日、米国では学芸員の専門職化が確立されており、とりわけキュレーターやエデュケーター養成においては、大学と博物館の連携による先駆的な実践的養成プログラムが展開されている。しかるに、米国の事例を手掛かりとして、大学（養成機関）と博物館（現場）の協働による学芸員養成カリキュラムの方略について検証する。

３．研究の方法

米国の事例調査はアメリカンインディアン美術大学（Institute of American Indian Arts：以下 IAIA）の学芸員養成カリキュラムを対象とした。IAIA は、大学と大学美術館の協働を重視しており、ネイティブアメリカンの民族文化の継承を目的としている。学芸員の専門性が、地域住民とのつながりを生み、大学と地域が連携し持続的な発展・運営を展開している。また IAIA は、学部・大学院の博物館学で学芸員認定資格を有しており、これは、我が国の学芸員課程との比較において条件的差異は少ないと思われる。

研究手順は、まず教育プログラム開発に携わる大学教授への聞き取り調査を行った。革新的な教育プログラムを開発する動態過程および大学と博物館の協働プロセスを検証した。つぎに、参加する学生の聞き取り調査を行った。我が国の先行研究（文部科学省『平成 20 年度大学における学芸員養成課程及び資格取得者の意識調査報告書』）との比較検証を行った。以上、2 点のエビデンスをもとに、我が国の学芸員資格制度への知見を整理し、特に地方（マイノリティなニーズ）に応じた大学（養成機関）と博物館（現場）の協働による学芸員養成カリキュラムの特徴と課題を明らかにした。

４．研究成果

（１）教育プログラムの動態分析

IAIA は現代ネイティブアメリカン美術館（IAIA Museum of Contemporary Native Arts）をオフキャンパスに所有している。場所は、ニューメキシコ州サンタフェのダウンタウンに位置しており、観光地活性化の一役を担う。IAIA において学芸員養成に携わるクロフォード教授（Crawford, Jessie Ryker）より当該美術館の設立目的や歴史的背景についてレクチャーを頂いた結果（調査期間：2015 年 12 月 26 日）、その要点の一つに、ネイティブアメリカンの人口減少による民族文化の衰退への文化再生という目的を抱える一方、経済的社会的状況からは、アメリカ文化への融合を無視することはできず、全く新しいネイティブアメリカン文化への受容という、背反した課題を抱えているという。IAIA が「現代美術（Contemporary Native Arts）」を冠する事由は、ネイティブアメリカン文化を現代アメリカ社会の中で、どのように解釈（interpret）していくのかということが、重要なコンセプトとなるからである。聞き取り調査からは、教授自身の体験談として、1980 年代当初は博物館教育においてネイティブアメリカン文化の迫害についての講義内容への反発が根強くあったこと－たとえば、寝た子を起こすなという考え方に拠る、白人至上主義が引き起こした人種差別の歴史を教える必要はないという意見－、加えてエデュケーターという学芸員専門職は、当時、社会的認知は確立していなかったという事実を知ることができた。しかしながら、その後 2000 年代以降は、IAIA の学芸員養成教育プログラムは、系統的な拡充を図るに至り、現在、全米のネイティブアメリカンとのネットワークを構築することで、全米的なネイティブアメリカン文化の帰還（repatriation）を目指している。

また、学芸員養成課程の博物館教育（インターンシップ）の検証からは、学生によるア

ウトリーチ活動を重視することが明らかになった。まずは、現在過去を問わず地域の民族アーティストの作品研究を課していることは言うまでもないが、それに加え、作品展示におけるコンセプト・メッセージ（statement）の提示を重要視している。そしてその背景には、展示企画に係る資金調達のための申請書類等の文章作成能力のレベルアップを目指していることが明らかになった。過去の展示企画の先行研究のくり返しではなく、アウトリーチ活動から、学芸員が意図するアイデアを具現化することが求められている。

（２）受講学生の意識調査

学芸員養成課程の学生 15 名への質問紙調査および聞き取り調査（2016 年 8 月 24 日～8 月 26 日）では、学生自らが、アメリカ先住民の人口減少による民族文化の衰退という課題をもち、そのような事由から「文化再生」という IAIA の博物館学の教育理念を十分に理解していることが検証された。意識調査からは、学生は、博物館機能の「収集・展示」および「教育活動」を重要視していることが明らかになった。また、アメリカ先住民文化と現代アメリカ文化との融合を意識した展示企画等への意識が高く、大学が掲げる教育使命が学生へ浸透している点も見て取れた。しかしながら、大学教育者が養成教育において、とりわけ 2000 年代以降より重視している「資金調達（fund raising）」や「博物館経営（museum management）」については、それほどの効果をあげていない。大学側は、アカデミック・ライティングの科目を配置し、公的資金申請といった資金調達講座を推進している点については、今後の課題となることが明らかになった。さらに、卒業後の進路については、博物館でのインターンシップやアウトリーチ活動を経験したのち、史料研究に専念するキュレーターになるのか、または社会教育活動を担うエデュケーターになるのかという進路選択を、学生が自発的に行うこと明らかになった。最後に、我が国の学生意識調査との比較からは、博物館教育活動への意識の高さについて、米国より低い傾向であった。今後は、我が国の学芸員資格制度への示唆として、博物館運営にかかる「博物館運営管理（museum administration）」についての対応が望まれることを指摘した。

（３）今後の展望と課題

IAIA の学生は「展示企画」と「博物館教育」において、スキルアップを期待することは先に述べたが、教育者は、その力量形成には「博物館運営管理（museum administration）」の科目を重要視していた。それには、博物館運営に係るディレクションを理論的の学習する機会であるという。また、その理論を実証・応用する科目として、実践的カリキュラムである卒業時の最終科目（「Indigenous Curatorial Method & Practice（地域伝統文化継承と実践）」「Oral Histories Research（口述歴史研究）」「Senior Thesis I & II（卒業研究）」）を編成している。これらは、地域のアーティストとの交流（アウトリーチ活動）を通して、個人での展覧会を企画することである。この実践には、有形無形を問わず、芸術文化を享受するという教育的思想があり、そして地域文化の生活をアドボケートするねらいがあるという。IAIA では、このようなカリキュラムを系統的に設定し、基礎理論から実践・改善を通して、自己の学芸員専門職としての力量を形成する環境を整えている。

最後に、我が国の学芸員資格科目にはない「博物館運営管理」の概要にふれながら、本研究の発展的課題としたい。博物館運営管理の教育目標には、13 のトピックが示され、それらは、(1) 任務表明（Mission statement）、（2）法規（Bylaws）、（3）戦略的計画（Strategic plan）、(4) 予算管理（Budget）、(5) 人事方針（Personnel policies）、(6) 展示方針（Collection policies）、(7) 公共政策方針（Public program policies）、(8) 多文化的声明（Multicultural statement）、(9) 人的構成（Staffing）、(10) 市場調査（Marketing plan）、(11) 展示レイアウト計画（Floor plan）、(12) 開発計画（Development plan）、(13) 博物館専門職行動規範（Code of professional museum conduct）であり、博物館専門職としての広範囲な能力基準が言語化されている。

大学養成者へのインタビューからは、将来のキュレーターであれ、エデュケーターあれ、かれらは独立的でなければならず、革新性への挑戦が求められるという。つまり、博物館職員のチームワークによる協働を成功させるには、他の専門職に対する役割理解とリスペクトが必要であるということであった。また、学生への意識調査からは、上述した (2) 法規、(4) 予算管理、(10) 市場調査、(12) 開発計画、(13) 博物館専門職行動規範に対する、学生の認知度や取組への熱心さが低いのではないかという課題が見られた。今後は、大学の教育プログラムの授業研究を行い、4 年間の教育プログラムを系統的に調査しながら、学生がどのような専門職への動機づけを決定するのか、その動態分析を試みたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）
①梶原健二,「博物館教育におけるインタープリテーション（interpretation）とは何か―教育担当学芸員（museum educator）の役割に焦点をあてて―」,『九州大学大学院教育学コース院生論文集飛梅論集』九州大学大学院，査読有，第 16 号　2016 年，pp.1-16.

〔学会発表〕（計 3 件）
①梶原健二,「教育担当学芸員による「interpretation」とは何か―1970 年以降のアメリカ博物館教育の定義を手がかりに―」,九州教育学会第 67 回大会,2015.10.5.～10.6.名桜大学

②梶原健二,「地域型専門大学における学芸員養成教育の使命について－アメリカン・インディアン美術大学の事例を手がかりに－」,アメリカ教育学会第 28 回大会公開シンポジウム，2016.10.22．埼玉大学

③梶原健二,「アメリカの生涯学習の多様性～ネイティブ・アメリカン博物館教育の体験記～」，福岡女子短期大学「市民短大」公開講座，2017.2.7．福岡女子短期大学

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）
○取得状況（計◇件）

６．研究組織
(1)研究代表者
梶原　健二　（KAJIWARA，KENJI）
福岡女子短期大学
文化コミュニケーション学科・講師

研究者番号：９０７２６４８１

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし